



2012年
会報 冬号
No.33

目の不自由な方々と共に映画鑑賞を楽しむことのできる環境づくりをしています。



ごあいさつ

シティ・ライツ代表 平塚千穂子

皆様、あけましておめでとうございます。時が経つのは早いものですね。つい先日、City Lights 映画祭が終わって、10周年のお祝いをしたと思ったら、もう3月の調布映画祭が間近に迫り、来年6月の第5回 City Lights 映画祭の準備にも火がついています。

今年も忙しくなりそうですが、あまりこの忙しさにかまけてしまうと、活動の中身の充実や、人々への配慮がおろそかになってしまったりするもので…、今年の課題は、一部メンバーへの負担を軽減し、多くの人がゆとりを持って活動に参加できるようにする体制づくりかなと思っています。

シティ・ライツは、活動をはじめて10年経ちましたが、最初はとにかく、なかったものを一から創り、方法を編み出し、築き上げることに一所懸命だった5年間。その後は、広がりつつある音声ガイドのニーズや期待に必死に応え続けた5年間だったように思います。

シティ・ライツはこれまで、「視覚障害者に映画鑑賞機会を提供するボランティア団体」という見られ方をしてきましたし、そういう期待に応えようとしてきました。それに、まだまだその役割を担う必要も感じています。しかし、一方で、シネマ・アクセス・パートナーズや、メディア・アクセス・サポートセンター、シグロといったNPO法人や映画会社が、映画業界自体に変化をもたらそうと、様々なアクションをおこなっています。そのおかげで、バリアフリー映画がだいぶ社会的に普及してきたように思います。

シティ・ライツは、こういった活動を応援し、補いつつも、これからどういう団体として活動をしていきたいのか？を、改めて見つめ直す時期なのではないか？と考えるようになりました。これは、原点回帰になるのかもしれませんが、わたしは、シティ・ライツ＝「視覚障害者も、映画の感動を共にする団体」というのがいいのではないかと考えています。「視覚障害者に提供すること」よりも、見える見えなに関わらず「映画の感動を共にすること」をメインにしたいと思っています。

団体名もカタカナ表記のシティ・ライツではなく、チャップリンの「街の灯」の原題と同じく、アルファベット表記の「City Lights」を敢えて使っていきたいです。そして、映画の感動を共にした人々の心に灯（あかり）が灯り、その一人一人が、街のあちこちで灯（あかり）を灯してくれたなら…と願いたいと思います。

先日、久しぶりに飯田橋のギンレイホールという古い映画館で映画を観ました。この映画館のパンフレットに、支配人の言葉が書かれていました。

「心のクリーニングにおいで下さい。

原発事故など問題山積みの日本。無力感にさいなまれますが、健全な判断力だけは失いたくないものです。こんな時こそ映画館へお越し下さい。映画は言葉だけでは伝えられない普遍的な心の葛藤や揺れ動きを映像で表現し、観る者に一緒に体験することを求め、心の浄化を与えてくれます。映画の力を信じ、いつか名画になり得る良識に裏打ちされた、多ジャンルの作品を揃え、お越しをお待ちしております。」

まさにこの支配人の言葉そのままに、映画の感動を共にする活動を、展開していきたいと思っています。

今年の私なりの City Lights のテーマは「イノベーション」です。新しい変化をおこしていきたいと思っています。

ちなみに第5回 City Lights 映画祭のテーマは「一思い出そう、大切なこと」に決定しました。City Lights にとって「大切なこと」、それはみんなが笑顔でいられる活動です。そのためにも、ゆとりをもって、新しいチャレンジをしていきたいと思っています。どうぞ、ワクワクしながら待っていて下さい。そして、大いに力を貸して下さい。本年も、どうぞよろしくお願いいたします。



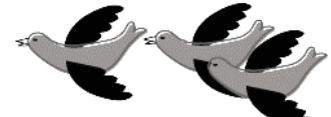
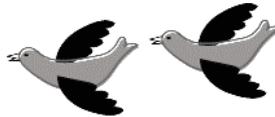
活動報告

このコーナーでは、近日(10～12月まで)に開催された音声ガイド付き上映会や、同行鑑賞会をレポートします。参加された皆さん、企画者そしてボランティアの方々お疲れ様でした。

- ・『くまのプーさん』 10月01日 川崎チネチッタ
- ・『沈黙の春を生きて』 10月14日 岩波ホール
- ・『僕たちは世界を変えることができない』 10月15日 ユナイテッドシネマ浦和
- ・調布シネサロン『銀座の恋の物語』 10月18日 調布市グリーンホール
- ・『天国からのエール』 10月22日 ヒューマントラストシネマ有楽町
- ・東京国際映画祭『幸福の黄色いハンカチ』バリアフリー上映 10月28日 TOHOシネマズ 六本木ヒルズ
- ・『モテキ』 11月6日 川崎チネチッタ
- ・ぱっかりぱっかり第九回公演『キョウヨウコウザ』観劇会 11月13日 アートスペースプロット
- ・『ヒア・アフター』DVD音声ガイド体験会 11月20日 東京都障害者福祉会館
- ・『ステキな金縛り』 11月23日 ユナイテッド・シネマ浦和
- ・『アントキノイノチ』 11月26日 丸の内ピカデリー
- ・音声ガイド付きプロレス観戦 イノキ・ゲノム～スーパー・スターズ・フェスティバル～ 12月2日 両国国技館
- ・『英国王のスピーチ』だれでも楽しい映画会 12月11日 立教大学新座キャンパス
- ・『やがて来る者へ』 12月12日 岩波ホール
- ・『RAILWAYS 愛を伝えられない大人たちへ』 12月25日 川崎チネチッタ



■『ヒア・アフター』音声ガイド体験会レポート



(タカハシモカ)

先日、有楽町チームの企画で『ヒア・アフター』のDVD音声ガイド体験会を開催することができました。ご参加くださったみなさん、ありがとうございました。音声ガイドを担当してくださった武藤さんをはじめ、ご協力くださったみなさんに改めてお礼を申し上げます。

映画『ヒア・アフター』は日本では今年の3月ごろに公開されましたが、津波のシーンがあり、東日本大震災があったばかりの状況にはそぐわないということで上映中止になりました。けれど、この映画は「たとえ孤独にさいなまれたり、不運な出来事に見舞われたりしても、分かり合える人にきっと出会えるし、やがて穏やかな日々が訪れる」と、観終わったあとで希望が持てるような作品でした。音声ガイド体験会ができて本当によかったです。音声ガイドを付けていただいたおかげで、登場人物たちの表情や動作、会話をしている場所の様子などもわかりました。多すぎず少なすぎない的確な音声ガイドがありがたかったです。

10月ごろ『ヒア・アフター』のDVDが発売されると、武藤さんの提案でDVD体験会の企画が持ち上がりました。この映画では、パリ、サンフランシスコ、ロンドンの各都市で暮らす3人の話がそれぞれに展開していきます。DVDは日本語吹き替え版でしたが、フランス語の部分が字幕だけでした。字幕を読んでくださる方を急遽探しました。男性のセリフの部分はキムタクさんが引き受けてくださり、女性のセリフのところは武藤さんが読んでくれました。

鑑賞会のときは、参加される方々を安全に誘導しなければと神経を使います。今回は、ベテランの久保さんがいち早く誘導ボランティアに手を挙げてくださったので助かりました。武藤さんとキムタクさんも手伝ってくれました。

手前味噌ですが、有楽町チームのメンバーの連携はすばらしいと思います。リーダーのウキちゃんが仕事をきれいに割り振って来て準備がスムーズに進みました。平野さんの事前解説がCLCのメーリングリストに流されると参加申し込みがドットよせられました。私は受付係をさせていただきました。

有楽町チームの活動は、普段はメーリングリストでのやりとりが多く、ときどき鑑賞会をしています。もっとメンバーが増えれば外国映画の鑑賞会も実現しやすくなると思います。もし、一緒に活動してみたいという方がいらっしゃいましたら、有楽町チームのお仲間に加わっていただければうれしいです。よろしくお願いします。

■ライブガイド講習会／誘導講習会レポート



オリエンテーション及び誘導講習会に参加して

(渡辺雪枝)

私がシティ・ライツさんの活動を知ったのはもう何年も前の事です。ファッション誌に掲載されていたボランティアの紹介で、その中の一つの小さな記事でした。当時私は名古屋在住でしたが、何気なく記事を切り抜き保管していたのを、その後、縁あって東京で暮らす事になり、再び切り抜きを目にした事をきっかけにボランティア登録し、鑑賞会の告知を頂く様になりました。とは言え、何の知識や経験もない私なんかが安易に参加して良いものか、又、活動されている方々の中に全く面識のない私が参加する事に、皆さんは違和感を感じないのだろうか、等々考え出すと次々不安要素が浮上してきました。それまで短絡的に視覚障害者の方と共通の趣味のお話が出来て、よもやお友達になれるかもしれない！などと思っていた事が段々軽率にも思えてきて、参加の糸口が掴めずいました。

そんな折、オリエンテーションと誘導講習会のご案内を頂き、まさに今の私には適切な内容で、すぐに参加を決めました。

和やかな雰囲気の中で、初めて障害者の方と一緒に、誘導の仕方を学ぶ機会は大変貴重な経験となりました。

実際に誘導の際に視覚障害者の方にお会いした時の『第一声』について教えて頂きましたが、それは例えば自分が街中で白い杖を持った方が困っていらっしやれば、ためらわず声を掛けると言う事につながります。

また、映画館内の座席やトイレへの誘導についても教えて頂きました。休日の映画館の混雑ぶりを思うと、鑑賞会に参加される視覚障害者の方々のタフさに驚くと同時に、誘導する難しさや責任を感じます。

お食事会の補助については、いろんな場面が想定されますが、どれだけ補助する方の立場に立って細かい心遣い出来るかで、相手の方が楽しくすごせるかどうか変わってくると思いました。

それは全く実生活でも同じであり、相手の立場に立って思いやる事は何も特別な事ではないと、ふと我に返る事もありました。

その他今まで疑問に思っていた事も気兼ねなく質問させて頂き、大変有意義な時間を過ごせました。この様な機会を頂いた事から感謝します。

ライブガイド勉強会に参加して

(清本法子)

皆様こんにちは。いつも微妙に幽霊会員になっている清本と申します。

今回は今年9月から開催されている「ライブガイド勉強会」に参加させて頂きましたので、これまでの経過と感想をお伝えしたいと思います。

この勉強会の講師は数多くの名ライブを生み出している壇 鼓太郎氏が務めて下さっています。参加者は初めての方から既にガイドで活躍されている方まで様々です。

勉強会ではライブガイドを行なう上でのポイントや失敗しがちな注意点等についての講義があり、次に実践ライブ練習となります。

第1回目の課題は「カールじいさんの空飛ぶ家」。5分足らずの場面ですが「切ない」とか「悲しい」など、そのものズバリの形容詞を使うと興ざめになるところを、どんな言葉で表現したらいいのかが考えどころでした。

第2回目の課題は「MI-3」(ミッション・イン・ポッシブル・スリー)。スパイ映画は専門知識の嵐です。まず使われている小道具の名称が分かりません。たとえ分かってもそのまま使って聞いている方々に伝わるのかは皆目疑問です。唸っている間に私のガイドは映像に置いて行かれて、机に突っ伏して「玉砕」の体でした。う～ん、残念。

勉強会に参加する度に映画を見ているようで見ていない事や、物を知らない事を実感します。時代物や異国の歴史物等では尚更です。

情けなくて月に吠えたくなる時もありますが、それでも一緒に参加している方々のガイドを聞くと「こういう表現もありなんだ」とか「こういう言い回しは分かりやすい」などの発見があってうれしいです。映画に対して違う方向からの見方を学べるというのはなんだか得をした気分になるし、やっていて楽しいです。この勉強会は1回毎の完結方式なので途中からでも飛び飛びの参加でも、全く問題ありません。興味をお持ちの方がおられたら、次回からでも参加して頂けたら嬉しいです。

次は、何をみようかな？



■新作映画情報チームへのインタビュー

前回は、推進室のうーたろうさんにインタビューしましたが、今回は新作映画情報配信担当の、南立さんにコメントを頂きましたので掲載いたします

毎週、週の初めに新作映画情報をお届けしている、新作映画情報チームの南立です。
メンバーは二人。もう一人は頼れる相棒、風船さん。2009年1月から二人三脚で毎週滞ることなく(ちょっと自慢)、隔週で分担して発信しています。

映画情報の元ネタは、映画データベース、allcinemaサイトです。このサイトから、タイトル、公開日、監督、出演者、解説など数項目を切り出して、読みやすく編集しています。編集方法は決まっていますので、といっても難しいものではなくごく簡単ですので、チームで作業をしても同じような文章を毎週お届けできていると思います。

ただ一つだけ、出演者の読み仮名をふるときは、まれに頭を悩ませます。すぐに調べられる場合もありますが、なかなかわからない場合も。いろいろな方に援助を頼んでやっとなんか、ということもあります。

子育てが忙しくてなかなか映画館に行けませんが、みなさんに映画情報をお届けしながら、自分自身は映画を見たような気になっています。

私自身がこの情報を心待ちにしているように、みなさんも楽しみにしていると思いつつ、隔週、張り切ってお届けしています。

私が出産した時や、風船さんのパソコンが壊れた時など、何度も困難を乗り越えた二人のコンビネーションのよさを、今後もご期待ください。ちょっと大げさかな？



特集

映画祭をめぐる～（国内編だよ！）
国際映画祭を知ろう

何回目か忘れました。ネタが枯渇してきたので国内の映画祭をいくつか取り上げます。

<概要>（ウィキペディアより）

○ゆうばり国際ファンタスティック映画祭(1990年～)

日本の北海道夕張市で開かれている映画祭である。主な上映作品はスタート当初は、SF映画、ファンタジー映画、ホラー映画、アドベンチャー映画などであった。当時は、ビデオ化すらされない国外の作品が多く、映画祭が宣伝の場になっていたが、ビデオレンタルの急成長から、近年は、4-5月にかけて公開される話題作の発表の場と、インディーズや自主製作映画のコンペティション部門、若手作家の発表の場となっている。石狩炭田が続々と閉山し、夕張市が主要産業を石炭事業から観光事業へ転換を図る中で唯一、文化事業を成功させた事例をもつ中心的な役割なども担っていた。

2006年に運営費を出していた夕張市が財政再建団体入りを表明したことに伴い、同年7月に開催補助金支出打ち切りを決定し、市運営による開催中止を発表した。その後、映画ファンなどの有志で2007年2月23日、新たに「ゆうばり応援映画祭」を開催した。映画ファンの有志と映画祭の元スタッフによる「ゆうばりファンタ」が中心となり、2008年3月19日から5日間で再スタートを切った。2008年のオープニング作品となった「僕の彼女はサイボーグ」は2003年の映画祭をきっかけとして制作された作品である。

○山形国際ドキュメンタリー映画祭(1989年～)

山形市で第1回映画祭を1989年に開催し、以後隔年(奇数年)で、例年10月頃に開催されている映画祭である。2006年度国際交流基金・国際交流奨励賞受賞。

山形市の市制100周年を記念して開催され、第1回から9回まで山形国際ドキュメンタリー映画祭実行委員会と山形市が主催している。2006年に山形市から独立した、特定非営利活動法人山形国際ドキュメンタリー映画祭が全ての事務局を担うことになり、第10回から山形市は主催から共催に変更となった。

ドキュメンタリーのための映画祭ではアジア地域で初のもので、アジアを中心に世界中の映画作品や監督が集まるイベントとなっている。

○みちのく国際ミステリー映画(1997年～)

岩手県盛岡市で1997年から2006年まで開催されたミステリーをテーマにした映画祭である。

「映画を愛する街」盛岡で映画祭を開こうとの気運が、地元在住のミステリー作家や映画愛好者の間で高まり、地元マスコミや映画関係者の協力を得て1997年6月に第1回映画祭を開催し、以降毎年映画監督・俳優・作家などのゲストを迎えて開催された。

日本・アジアの映画が中心で、「新人監督奨励賞」と「角川オフシアター・コンペティション」の2つのコンペティションがあり、毎年10月(1997年と1998年は6月開催)に開催された。第10回まで開催されたのを一区切りとし、2007年年度からは「いわて盛岡映画祭」と名称変更して、ミステリーの枠にとらわれない新しい映画祭へ継承されることとなった。

さらに2008年は、「もりおか映画祭」と再改称して開催されることとなった。

○広島国際アニメーションフェスティバル(1985年～)

広島県広島市で2年に一度、8月に開かれる国際国際アニメーションフィルム協会公認の映画祭である。

主催は広島国際アニメーションフェスティバル実行委員会、広島市、広島市文化財団である。共催として国際アニメーションフィルム協会日本支部も関わっている。アヌシー、オタワ、ザグレブと並ぶ世界4大アニメーションフェスティバルの一つで、国際アニメーションフィルム協会公認フェスティバルである。第1回は1985年開催。初年度は被爆40周年を記念して開催された。第2回が1987年、第3回が1990年と開催間隔が一定しなかったが、第4回以降は2年ごとの開催が定着している。

コンペティション、上映会、ワークショップ、エデュケーショナルフィルムマーケットなどが開かれる総合的な映画祭である。主要な賞はグランプリとヒロシマ賞。受賞作品に『おんぼろフィルム』(第一回グランプリ:手塚治虫)、『木を植えた男』(第二回グランプリ:フレデリック・バック)など。原爆投下都市広島で開かれることからアニメーションを通じての国際的相互理解と世界の恒久平和を訴えている。日本で世界の優れたアニメーションが見られる貴重な機会である。

○ショートショートフィルムフェスティバル(1999年～)

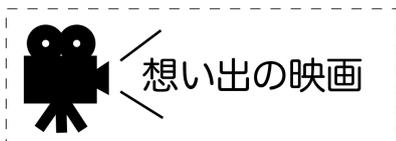
短編映画を対象とした日本の映画祭。別所哲也が実行委員会代表を務める。

1999年に別所哲也らが発起人となり、「アメリカン・ショートショートフィルムフェスティバル」としてスタート。2002年に現在の名称となる。25分以内の短編映画を対象とし、国際短編映画祭としてはアジア最大級である。

2004年より、アジア地域の作品(アジア国際部門、ジャパン部門)については、東京都との共催による「ショートショートフィルムフェスティバルアジア」として同時開催され、部門最高賞には優秀賞と東京都知事賞が授与される。

各部門最高作品には優秀賞が授与されるが、この優秀賞受賞作品の中から選ばれし作品だけがグランプリに選出される。2004年に米国アカデミー賞公認映画祭として認定されたことにより、このグランプリ受賞作品は翌年のアカデミー賞短編部門の候補作品となる。

映画祭の最終日には明治神宮の境内にある神宮会館にレッドカーペットが敷かれ、各界から著名人を集めた授賞式典が盛大に挙行される。



一思い出は、名画とともにいつまでも一。

このコーナーでは“思い出の映画”にまつわる投稿エッセイをご紹介していきたいと思えます。皆さんの汗と涙の人生をセピア色に彩る素敵な名画の数々をエピソードと共にお寄せ下さい!

(シティ・ライツ会員 酒巻和男)

映画を観た、初めての記憶って何でしょうか。映画解説の淀川長治さんは、2歳のときに観た映画のことを、何もかも覚えていました。私の場合は、田舎から祖父母が上京してきたので、映画を観に行きました。

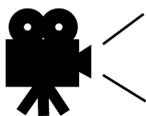
そのころは、あちこちの街に、たくさん映画館があったのです。私は、右の座席の祖父母、左の母との間に、足をぶらぶらさせて座っていました。スクリーンでは、通りを、侍10人くらいが、血相を変えて、右から左へ走って行く。やがて屋敷の門をくぐる。侍が入り乱れての斬りあいになった。

「大変だ! 見つかったら危ない」。前の座席の後ろに、私は小さくうずくまる。

「大丈夫だ、これなら見つかりっこない…。少し静かになってきたみたい。」座席と座席の隙間から覗くが見えない。頭がだんだん下から上がって行く。前の人の頭の間から、やっと観えた。

「切りあいは、もうすぐ終わりそうだ。」「見つからなかった」。ほっとして元の座席に戻る。

たったこれだけが思い出の映画です。タイトルもストーリーもわからない、こんな3歳のときに観た映画なんて、本当にあったことなのか。それとも夢の中のおとぎ話だったのか。遠い昔のことなので、今となっては、自分でもはっきりさせようがありません。



お知らせ

■新規会員のご紹介

(2011年10月1日～2011年12月25日までにご入会いただいた方々です。)

[正会員] ・畑 洋子(東京都多摩市在住) ・久保田桃子(東京都杉並区在住)
・佐藤治子(東京都大田区在住) ・石井 貴(長野県松本市在住)

■ 岩波ホール『風にそよぐ草』音声ガイド付き上映

日時: 2月6日(月曜日) 上映開始:18時30分～(映画は104分です。)

集合: 17時50分 岩波神保町ビル1階エレベーターホール(神保町駅A6出口直結)

料金: 1400円。(晴眼者も一律)

ガイド方式: 音声ガイドと字幕朗読は収録形式で行います。ラジオは、FM周波数88.5MHzに合わせてください。

【作品介绍】 ショッピングセンターで財布を拾ったジョルジュ(アンドレ・デュソリエ)は、財布の中の小型飛行機操縦免許証の顔写真に心を動かされるが、そのまま警察に届けることに。その後、財布の持ち主マルグリット(サビーヌ・アゼマ)からのお礼の電話がかかってくるが、素っ気ない雰囲気ジョルジュはがっかりしてしまう。その翌日から、ジョルジュはマルグリットに手紙や電話で連絡を取り続け……。あまりに奇異な行動に出る初老の男と、次第に男のことが気になり始める女との奇妙なやり取りを映し出す。フランスの名匠アラン・レネ監督が、ひょんなことから出会った男女の関係をつづる大人の恋愛映画。

フランスの名匠アラン・レネ監督が、ひょんなことから出会った男女の関係をつづる大人の恋愛映画。

【申込締切】2月1日 24時

※お申し込みは、同行鑑賞受付窓口 doukou@citylights01.org または、シティ・ライツ事務局(03-3917-1995)までお願いします。

■調布シネサロン “日活スター列伝”「惜別の歌」音声ガイド付き上映

日時: 2月14日(火曜日) 上映開始: 14:30～/19:00～ の2回。(音声ガイド付き) ※各回 30分前開場

場所: 調布市グリーンホール(京王線調布駅中央口よりすぐ)

鑑賞料: 無料 主催: 調布市文化・コミュニティ振興財団 協力: シティ・ライツ

上映作品: 『惜別の歌』(1962年/日活映画/81分)

監督: 野口博志 出演: 小林 旭 笹森礼子 白木マリ ほか

(あらすじ) 東京の高校で体育教師をしていた三崎(小林旭)は、ある日、町のチンピラと喧嘩したことで、生徒に惜しまれながら学校を去った。故郷の仙台に帰ってきた三崎は、昔、恩になった神戸組と兵頭組の対立に巻き込まれるが、ヤクザになりきれずに悩む…。「黒い傷あとのブルース」「北帰行より 渡り鳥北へ帰る」「さすらい」に続く小林旭のヒットソングの映画化第4弾。「さすらい」の野口博志が監督したアクション映画。

※音声ガイドをお聞きになる方は、FMラジオをご持参ください。周波数 FM88.5MHz で音声ガイドをお聞きになれます。

(当日受付にてラジオの貸出もあります。)

※調布駅から誘導をご希望の方は、事前にシティ・ライツ事務局までご連絡ください。

■ 調布映画祭2012 音声ガイド付き上映 3 作品決定！

今年も、3月に開催される調布映画祭で、シティ・ライツが音声ガイドに協力します。年に1度のお祭りですので、シティ・ライツのボランティアスタッフ一同も、総力をあげて取り組んでいきます。是非、ご期待ください。

日程と作品が決定いたしましたので、ご案内いたします。お申し込みについての詳細は、追ってメールリスト等でお知らせします。メールをお使いでない方は、2月10日過ぎにシティ・ライツ事務局まで、お電話でお問い合わせください。



★ 3月10日(土) 12:50~14:57

会場:調布市グリーンホール 大ホール(定員 800名)

『ゴースト ニューヨークの幻』1990年/アメリカ映画/127分

監督:ジェリー・ザッカー/出演:デミ・ムーア パトリック・スウェイジ ウーピー・ゴールドバーグ ほか

(あらすじ) 1990年、アメリカのサマー・シーズンで、数ある超大作(「トータル・リコール」「バック・トゥ・ザ・フューチャーPART3」など)を向こうに回し、興行収入No.1に輝いたラブ・ファンタジーの大ヒット作。銀行員のサムは恋人のモリーと共同生活を始めるが、その矢先に暴漢に襲われて幽霊になってしまう。かつての同僚カールに操られ、自分を殺した男を発見したサムは、エセ霊媒師オダ・メイの力を借りて、モリーを狙うカールの悪事に立ち向かう……。心で通じ合う恋人たちの姿が感動的。名曲『アンチェインド・メロディ』が切ないドラマを盛り上げる。

★ 3月10日(土) 18:10~20:08

会場:調布市グリーンホール 大ホール(定員 800名)

『英国王のスピーチ』2010年/イギリス=オーストリア合作映画/118分

監督:トム・フーパー

出演:コリン・ファース、ジェフリー・ラッシュ、ヘレナ・ボナム＝カーター ほか

(あらすじ) トロント国際映画祭で最高賞と観客賞に選ばれた、実話を映画化した感動のドラマ。英国が誇る名優コリン・ファースが扮するのは、二つの世界大戦を体験した英国の“善良王”ジョージ6世。吃音で苦しみながら、第2次世界大戦下の国民たちを励ます演説にこぎつけるまでの努力を、妻エリザベスとの夫婦愛、言語障害の専門医との友情を絡めて描き出す。



★ 3月11日(日) 17:50~19:42

会場:調布市文化会館たづくり くすのきホール(定員 600名)

『鉄道員(ぽっぽや)』1999年/日本映画/112分

監督:降旗康男 出演:高倉健、大竹しのぶ、広末涼子 ほか

(あらすじ) 浅田次郎の直木賞受賞作を、高倉健主演で映画化した人生ドラマ。職務に忠実なあまり、生後2ヵ月で死んでいった娘や思いがけない病で死んだ妻を見取ることさえできなかった鉄道員(ぽっぽや)・佐藤乙松は、近く廃線になる幌舞線とともに定年を迎えようとしていた…。筋金入りの鉄道員(ぽっぽや)として気概と誇りを胸に生きてきた男が、定年目前になり、自らの人生を振り返る感動作。



編集後記

編集スタッフ、校正係や音訳スタッフも大募集！
希望の方は会報編集課まで！

(会報編集課 ノンちゃん)

本編の記事には少々間に合わなかったため、ここで発表です。来年のシティ・ライツ映画祭の日程が決まりました！第5回シティ・ライツ映画祭は2012年6月24日(日)。場所はこれまで同様、江戸東京博物館のホールを引き当てることができました。次号では上映作品や内容などなどについて、詳しくお知らせしたいと思っていますので、どうぞお楽しみに！

それにしても2011年は私たち日本人だけでなく世界中の人々にとって忘れられない年となったと言っても過言ではない年であり、そして、そこからの復興は今もまだまだ先が見えているとは言いがたい状況です。こんなことが起きてしまったのは決していいことではないけれど、それによって本を読むとき、歌を聞くとき、もちろん映画を観るときも、今までとは違う感じ方ができている。それは決して悪いことばかりではないと思います。乗り越えられない試練は与えられない、そう信じて、大きな被害を受けられた地域の皆さんに心を寄せつつ、2012年も大切に過ごして行きたいなあと思っています。

(会報編集課 石坂)

「心を洗われるような感動的な出来事や素晴らしい人間と出逢いたいと、常に心の底から望んでいても、現実の世界、日常生活の中ではめったに出逢えるものではない。しかし、確実に出逢える場所がこの世にある。その場所とは、本の世界、つまり読書の世界だ。」本『永遠の0』の解説、児玉清さんの言葉です。2011年は3月11日に始まって1年中混乱の中にいました。そんな中、人々を惹きつけるのは人とのつながり。出逢い。私もその一人であり、この日を境に自分が大きく成長できるきっかけになったように思えます。冒頭の「本との出逢い」に限らず、シティ・ライツへの参加もその1つ。関わったイベントは10以上、見た映画は25本、読んだ本は30冊、初体験3つ…心残りはバンジージャンプしていないこと(苦笑)。それでも充実した1年でした。まだまだだとは思いますが、2012年はもっと刺激的な年にしたいと思います。

(会報編集課 吉川)

みなさんこんにちは。書いている時期と皆さんの手に届く時期が異なるため、2011年の振り返りを書くか、明けまして〜と書くか毎年悩むのですが、やはり今のリアルな感情を書きたいので、2011年の振り返りについて書こうと思います。震災関連のことはさまざまなところで語っているので、この場では触れないでおきます。自分の生活を振り返ると、結構充実した一年でした。目指していた資格も取れたし、趣味のピアノをいろんなところで演奏することが出来たし、異業種交流会や読書会に参加してたくさんの人とお会いすることが出来たりして、「やりたいことは出来た」1年だったかなと。しかしその分、映画が犠牲となりました…(涙)。20本行きませんでした…(涙)。少ない中から、ベスト5をあげます。「わたしを離さないで」、「英国王のスピーチ」、「婚前特急」、「人生、ここにあり」、「キッズオールライト」こんなところかな。来年はもう少し見たいと思います。それでは、また会いましょう。

お忙しい中、今回の会報作成にご協力いただいた方々には、大変感謝しております。ありがとうございました。皆さまの投稿を、心よりお待ちしております。宛先は、kaihou@citylights01.org。次回の発行は4月10日。投稿される方は、3月第2土曜日までにお願います。『会報のデータ送信』を希望の方には、会報のテキストメール送信にも対応します。ご希望の方がいらっしゃれば、会報編集担当アドレス<kaihou@citylights01.org>まで、氏名と会報の送信を希望するメールアドレスを記入して、お申し込みください。

2012年 冬号 1月10日発行 編集:吉川俊平 斉藤恵子 レイアウト・編集:石坂春香
発行者:バリアフリー映画鑑賞推進団体 シティ・ライツ
事務局:〒114-0016 東京都北区上中里 1-35-15 TEL&FAX 03-3917-1995
E-mail mail@citylights01.org URL <http://www.citylights01.org>

